

平成30年度 第3回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	平成30年度第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日時	平成30年11月7日(水) 午後3時から午後4時45分まで
3	会場	本庁舎 3階 共用会議室307
4	出席者	栗田会長、細川副会長、磯野副会長、重野委員、山田(直)委員、大澤(克)委員、吉田委員、浅見委員、小澤委員、山田(百)委員、西澤委員、望月委員
5	市側出席者	宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査、土屋地域おこし協力隊
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成30年11月13日

協 議 事 項 等

1	<p>会議の概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) あいさつ</p> <p>(3) 協議事項</p> <p>①第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(素案)について</p> <p>②その他</p> <p>(4) 閉会</p>
2	<p>会議事項概要</p> <p>(1) 開会 (進行：磯野副会長)</p> <p>(2) あいさつ (栗田会長)</p> <p>(3) 協議事項</p> <p>①第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(以下、「第2次計画」という。)(素案)について</p> <p>※事務局より、市民活動サポートセンターの本庁舎への移設について説明。 ※事務局より、第2回委員会以降修正した主な変更点について説明。</p> <p>【栗田会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より説明をいただいた。今回は素案づくりの最終となる。それぞれご意見をいただきたい。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> P20 協働の領域のイメージ図について、領域を示すものなので、中心の協働の領域の範囲を透かすことはできないか。 P25 まちづくり推進会議について、これは合併時からの約束事。用語の説明もしくは、ページを割いて詳しく説明が必要と考える。 P34 市政への市民参画の一般的な方法について、安曇野市の特徴として「市長への提案」制度があるので明記が必要。

【委員】

- ・P20 協働の領域のイメージ図であるが、各主体が関わっているが、全てを重ね合わせることはできないので今回の図になったように思うがいかがか。透かしてしまうと重なり合いがわかりにくくならないか。

【委員】

- ・イメージなので、委員皆様のご意見を伺えば良い。

【事務局】

- ・イメージに対する委員の皆さんの思いは同じと考える。必要とすれば、文面で補う。
- ・まちづくり推進会議は既に始まっている会議。若干の説明がP14にあるが、不足していれば説明を補う。
- ・「市長への提案制度」については表記する。

【委員】

- ・P16 協働の理念の枠の中のコメントについて、「・・・環境や考え方が異なる主体同士が・・・」とあるが、活動の目的の違いを理解することが大切であり、必ずしも「考え方が異なる」とは限らないと考える。
- ・P19 協働を担う主体の定義の「市民」について、「個人並びに団体」とあるが、団体は含まなくても良いのではないか。
- ・P25 「あらゆる主体」という言葉が繰り返し使われているが、既に十分に説明されているので、多用は不要。

【事務局】

- ・P19 「市民」の定義について、第1次計画では「安曇野市民」と括っている。「団体」は削除する方向でどうか。

【委員】

- ・自治基本条例第3条における市民の定義では、居住するもの以外も含めている。

【委員】

- ・「団体」を削除する方向で特に問題は無いと思われる。

【委員】

- ・P28 具体的施策（4）行動要領の2つめであるが、「地域リーダー」とある。前回の会議でその名称を使うことはハードルが高いという議論になったと思うがいかがか。
- ・市民活動サポートセンターが本庁舎へ移設されるということだが、協働コーディネーター修了者等のスキルアップや今後の役割等はどうか。

【事務局】

- ・講座修了者も含めてコーディネートを担当する方を発掘し、スキルアップを行っていききたい。4ページの用語の説明にあるとおりの役割をもって地域で活動できる方を養成していきたいが、実践が伴うことでありそれなりのスキルをもつことには時間もかかることなので、その仕組みは今後研究していきたい。

【委員】

- ・P37の図であるが、「関係」の字は「連携」ではないか。
- ・市から支援の矢印が出ているが、市以外の主体の関わり方はどうか。

【事務局】

- ・誤字は訂正する。
- ・図については、全体的に見直す。

【委員】

- ・市民活動サポートセンターの名称である「くるりん広場」であるが、これは当時「わの会」が「人が集まる場所、訪れる皆さんに馴染んでほしい広場」にするために愛称を募集してつけた名称である。消えてしまうのは残念であるが、本庁舎に移転すれば、「くるりん広場」は合わないと思う。

【事務局】

- ・本庁舎移設後の市民活動サポートセンターについては検討段階であるが、場合によっては「くるりん広場」という言葉を削除させていただく可能性があることをお願いしたい。

【委員】

- ・市役所は英語で「タウンホール」というとおり、その語源は「広場」である。そういう意味では、どこかのコーナーが広場であってもおかしくないという思いはある。よく検討してほしい。

【事務局】

- ・本庁舎へ移設後にどこに窓口を置くかにもよるが、現状のフリースペース（1F、4F）には既に名前がついている。混同しないよう検討していきたい。

【委員】

- ・先ほどP16の協働の理念での「考え方の異なる・・・」について意見があった。お互いの温度差の違う主体同士がそれを理解しないままであると押し付け合う関係になってしまうと思うので、個人的にはそのままが良いように感じている。

【委員】

- ・「特性の異なる・・・」と言う方がスッキリとする。個人的なこだわりかもしれないが、「考え方が異なる・・・」には違和感がある。

【委員】

- ・P26 情報収集であるが、個人的な感覚で言うと、システムの構築ではなく、データベースの構築だと思うのがいかがか。

【事務局】

- ・情報収集の仕組みも入れているため、含めて「システム」としている。

【委員】

- ・データベースが目的だが、そこまでの情報収集の仕組みすらできていない。

【事務局】

- ・P26は情報収集の仕組みであり、P28の基本施策2でデータベース化について触れている。

【委員】

- ・情報発信の方法について、コンビニやスーパーでの情報提供は具体的にはどのように行うのか。

【事務局】

- ・前回委員会でいただいたご意見を反映させたもの。市民活動に関心の無い方でも目にさせていただき関心をもっていただくため、誰でも多くの方が訪れる場所に市民活動等の情報誌をおかせていただくことをイメージしている。

【委員】

- ・紙ベースでの情報発信ということで理解した。

【委員】

- ・P29 「人財の発掘・育成」の「育成」であるが、行政が表現するに当たり「育成」が良いのか「養成」が良いのか。言葉遣いは検討してほしい。

【委員】

- ・P4 協働コーディネーターと地域リーダーの用語の説明であるが、受講者数は不要。
- ・P4に「あづみ〜ず」のイラストは合わない。

【事務局】

- ・受講者数は削除する。

【委員】

- ・地域リーダーの今後の活かし方について、私の経験上、地元地域では既にリーダーがいるため参画しにくいように思う。地元地域以外で活動の場があれば活躍できるのではないか。

【事務局】

- ・今後講座修了者等のスキルアップ等を図る中で、活躍の場については研究していきたい。

【委員】

- ・グローバル社会である。枠を広く考えて固定観念に縛られず、絵に描いた餅にならないように願います。まずはやってみることが大切。

【委員】

- ・そこまで細かく計画に入れることはどうか。

【事務局】

- ・P30で「まちづくり人財バンク（仮称）」を入れている。将来的にはノウハウを持った方が増えてここに登録できれば一つの仕組みの中でできるようになると考えている。

【委員】

- ・「まちづくり人財バンク（仮称）」の実施主体は市民活動サポートセンターで良いか。

【事務局】

- ・生涯学習課で所管している既設の「生涯学習リーダーバンク」に登録していこうというやり方もあったが、委員会でも別の仕組みで行ったらどうかとのご意見もあり、市民活動サポートセンターの中でしっかりと仕組みを設けていけたらと考えている。

【委員】

- ・計画が完成した後は全戸配付されるのか。

【事務局】

- ・第1次計画の時には概要版を作成し全戸配付したが、第2次計画では概要版を作成しない。概要版は色々な広告の中に紛れてしまい、中々目にしていだけないと伺っている。「広報あづみの」に特集を設けて紹介する。

【委員】

- ・計画策定後、実行していくことが大切。その進捗評価等は本委員会で行うのか。

【事務局】

- ・毎年度、本委員会にて中間、年度末に進捗を確認し、計画自体を評価していただく。

【委員】

- ・協働コーディネーターや地域リーダー修了者は現在具体的にどのような活動をしているのか。

【事務局】

- ・協働コーディネーター修了者の内、希望した方が市民活動サポートセンターでコーディネーター及びサポーターとして活動をしている。また、修了者同士でグループをつくり活動をしている方々もいる。
- ・地域リーダーは動きが十分に把握できていないが、それぞれ個人で活動されている。まちづくり推進会議等の場面に活躍の場を設ける構想もあった。また、市区長会事業のワークショップの場にファシリテーターとして参加していただいた。

【委員】

- ・講座修了後に活動に結び付けるフォローアップが大切。実践の場の構築が大切だと感じた。

②その他

【栗田会長】

- ・その他、皆さんから何かあるか。

※事務局より、計画策定に関する今後のスケジュール（パブリックコメント等）について説明。

※「協働のまちづくり講演会」（12月15日開催）について報告。

【委員】

- ・協働について広く知って欲しい。目で見ただけでなく、耳で聞くことが大切。

【委員】

- ・協働の歴史もあるので、物語のように伝えたらわかりやすくなるのではないか。

【委員】

- ・なぜ今協働なのかはわかりやすく丁寧に説明する必要がある。

【委員】

- ・関心の無い方に「協働」を訴えても難しい所もある。実際に市民活動をされている方に活用していただけるようにしていくことが大切。

【委員】

- ・計画について知っているのと、その内容を根拠として行政に話ができるので、団体の方々にも活用してもらえると良いと思う。団体で勉強会などできると良い。

【委員】

- ・地域の課題に目を向けて何とかしようとする方々はまだまだ少ない。そういう方たちを含めてパブリックコメントにするためにはどうしたらよいか考えてほしい。単なる形式的なパブリックコメントだけでは変わっていかない。
- ・計画を作って形を整えていくのは素晴らしいが、広がりをもって前進しているかの評価を厳しくすることが大切。また、担当職員が意識を高めるのではなく、職員全体の意識高揚を考えてほしい。

【委員】

- ・紙芝居などにしてわかりやすく協働を伝えるのも良いのではないか。

（４）閉会

【栗田会長】

- ・以上で全ての議事を終了とする。

【副会長】

- ・慎重審議をいただき感謝する。振り返ると市民アンケートや松本市の視察などを行い、計画づくりをしてきた。今後、職員の研修を市民より先にやっていただきたい。計画をつくることは目的ではない。これからがスタートであるのでお願いしたい。
- ・平成30年度第3回協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり行動計画策定・評価委員会をこれで閉会とする。